

4月27日(土) 午後に、ハーバード大学歴史学部教授のアンドルー・ゴードン氏をお迎えして、「特別講演会 - Seeking New Horizons -」を開催しました。ゴードン教授は、東京大学の招聘で日本に滞在中で、国立高校での講演会を快く引き受けてくださいました。当日は、約130名の生徒が参加し、教室は講演の開始前から活気に満ち溢れていました。

講演は、ゴードン教授から最初に示された“Serendipity”をキーワードにしながら、歴史、政治、経済、外国語、異文化理解など多岐に渡るトピックに及びました。世界の第一線で活躍する方の話を聞いて、多面的・多角的な学びの機会となり、生徒たちは、知見を深め、自分たちの将来について今まで以上に考えるようになっていました。また、日々の学習の、各教科のつながりを感じる横断型教育の機会にもなっていました。

ゴードン教授に1時間ほど話をさせていただいた後の質疑応答では、生徒たちは物おじせずに、質問もすべて英語で行うなど、鋭い質問が教室を飛び交いました。生徒が相互に刺激し合うことにより、語学力や思考力、そして発信力が高まるのはもちろん、それぞれの人生の目的を深く考える時間ともなりました。

「国立から、未来を拓く」生徒たちには、日頃から地域・グローバル課題について考え、視野を広げ、各課題の解決策を英語で発信しながら、課題解決力と行動力を持ち合わせた次世代のリーダーとして活躍して欲しいと思います。生徒たちの感想にもある通り、今回の講演会、大変有意義な時間となったようです。

【生徒の感想から】

「未来を見据えて、生活していくことが大切だと学んだ。また、日本に来たきっかけが偶然、機会があったからだを知って、その時なんとなく挑戦したことが、後に何かに繋がることもあるから、様々なことに挑戦し、チャンスを掴めるように、常に挑戦する勇気を持ちたいと思った。」

「これから必要になるスキルは、スキルを学ぶスキルだとおっしゃっていたのが印象に残りました。また、海外に行ったときは、日本と違うところではなく、似ているところを探すと言うのも実践してみたいと思いました。」

「新しい時代に適応した力を自分で得ていくことが必要という言葉がとても印象に残った。」

「他の人の英語力がすごかったので、自分もあなれるようこれからも努力していきたい。」

最後に、宮田校長から、「自分にとっての“New Horizons”とは何だろう？」という問いかけがあり、生徒たちは、国立高校で学ぶ意義を再構築するとともに、日々の学習に向けてのモチベーションを高めていました。講演後も、質問のための長蛇の列ができ、国高生の学問に対する情熱にゴードン教授は感銘を受けていました。今後もこういった学校行事を計画し、未来溢れる国高生に幅広い選択肢を提示して、生徒一人ひとりの進路実現の後押しができるように、応援していきたいです。

